

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	フクオカアースエイド（学生の被災地支援派遣、実事業）
資金分配団体名:	一般財団法人日本未来創造公益資本財団
実行団体名:	一般社団法人アースプロジェクト福岡
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	九州各県
事業対象者:	災害に遭遇した被災地及び被災者

Version 3.2

日付：2022年3月10日

I. 事業概要

事業実施概要	被災地の役所や社会福祉協議会に出向き担当者と同様、実情やボランティア状況等のヒアリングを行った。また、久留米市社協の主導で、事務局メンバーが実体験研修を兼ねて直接支援活動を行った。同時に学生募集に関するツール（チラシ、HP更新、SNS募集システムの構築、概要しおりやマニュアル）を整備し準備を続けた。さらに、県内約10校の大学に募集チラシを配布、募集活動を行った。 第5波が過ぎ、佐賀県大町町への視察では様々な実行団体と接する事ができた。特にYNF様との協業が増え、幾度となく久留米市の民家や賃貸住宅にて学生を連れて支援活動を行った。また五ヶ瀬自然学校様からの呼びかけの、被災家財を使った写真フレーム作りといった心をケアする活動は2度の派遣で総勢30人を超える学生が集まった。同様に心の復興イベントである大町町のサンマ祭り（12/25開催）は12名の学生を派遣。別の動きで復興コンサートを企画し、佐賀出身の女性アーティストによるライブを行った。 感染状況が一旦収まったタイミングで様々な場所へ派遣し実行、被災地や被災された方々へ寄り添うことができたのは大きな収穫だった。
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	応募当時から、我々の災害支援活動に対する認識が甘く、事務局の方々に迷惑をかけた。ただ、学生を派遣すればいいというものではなく、事前の行動として「現地調査」「専門家へのヒアリング」「規定の作成」「マニュアルや活動しおり制作」「事務局の体験活動」等々の準備段階の必要性をご指導頂き、ある程度の時間を割き実行した。 結果的に、2次募集による採択ということに加えて、実際の活動のスタートが遅くなってしまったが、他の団体の方々に紹介いただき、他団体の活動に協力させて頂く形で学生を派遣、活動を10件近く行うことができた。 今思えば、感染症第5派と6派の間に数をこなすことができたのはタイミングとしても幸運だったと史料。 年明け感染症が広がり、当初実行を案が得ていた施策も行うことができず、残念ではありますがチャリティーイベントの協賛やSNSを使用した新たな募集活動トライなど、フクオカアースエイドの活動が着実に前に進んでいると考えている。
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	学習機会の不足/格差	コロナ禍の影響で、学校にも行けず、（飲食の時短営業の為）バイトもできず、サークル等の活動等もできない学生に対して、社会との繋がりを提供するため、被災地支援のボランティア活動を推進。	登録学生数	200名の登録者または派遣数	登録者456名 実際の派遣数133名	ボランティアの意義を伝え呼びかけ発信した結果、賛同した学生が456名も集まった現状から存在的にボランティア活動を前向きに考えている学生の存在が存在することがわかった。
コロナで影響を受ける従事者	事業実施上の困難	賃貸アパートを経営するオーナーが所有する物件の1F部分が豪雨被害で浸水。はやく元通りにし、入居者募集を再開する為、かべと床のボードを剥がし、カビ対策等を行う	学生を数名派遣	事務局を含めて5名の派遣を数回行う	計3回、延べ16名の派遣	参加してくれた学生諸君は、災害直後の大規模復旧作業後も、次のフェースに進む活動があると認識したようだ。
中間支援者	その他	佐賀県大町町の主催する復興イベントへの協力。ボランティアに学生を派遣し、佐賀県出身のミュージシャンの復興コンサートを企画	派遣学生数 コンサートの実現	ボランティア学生を10名以上派遣。 約30分のコンサート実施	計12名の派遣 35分7曲のコンサート披露	心の復興ともいべきイベント。メディアとも協力し、被災された方々へ寄り添う術を見つけた。今後とも具体的に企画立案していきたい。
中間支援者	その他	実行団体主催の活動の人員確保のため、受益者（実行団体）へ速やかに人員（学生）を派遣する	実行団体数 総派遣数	3実行団体 50名	3実行団体 延べ117名の派遣	ベテランの実行団体と組む事で、スムーズかつ安全に学生を派遣することが出来たと思う。今後とも他団体との連携を重視した活動を続けていきたい。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人主催の活動は年間10回。他団体主催等の活動の賛同5回（各種団体との連携等） ・災害復興や地球環境保護に関する研修（勉強会）を並行して行う（年3回程度） ・活動を明確化し積極的に実行することで、ボランティア活動の登録学生が増える。 ・尚、他県へのボランティア活動参加が制限されている中、福岡県を含む4県で活動できるように、学生の移動負担を考慮し、各県毎の主要大学やボランティア団体と提携する。
考察等	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、当法人の主催活動を行う前に「①事前の調査・経験を積み」「②他の実行団体との連携から学生派遣をスタートすべき」とご指導頂き、それに特化した形となった。コロナ禍の合間を練っての活動のため当初予定の回数数字は減ったが上記①で4回の活動②については8回の計12回の活動を行い多くの経験を積む事が出来た。 ・勉強会については実行団体YNF江崎様の初心者向けのリモート講演会を2回行った。リモート講演は今後とも続けていきたいと史料する。 ・SNSの効果もあり、登録学生は456名を越え、頭書の計画の倍以上の成果を上げた。 ・感染症対策を充分行った上での活動だったが、福岡、熊本、佐賀の3県での活動を他の実行団体や行政と連携しながら行った。第5派と6派の間に集中して活動できたのは結果的に幸運だった。

V. 活動

活動	進捗	概要
学生ボランティア派遣の為の準備	計画通り	事務局にて実際の被災地を視察し、担当者へのヒアリング。実体験を踏まえ、マニュアルやしおりの整備と学生募集ツールや仕組みの構築を行い備えを充実させた。
久留米市での活動	計画通り	久留米市社協や、実行団体YNFの活動を支援するかたちで、学生を派遣。実際の活動を行った。主に浸水家屋の整備の為壁や床を取り壊し、カビ対策を行うまでの手順を学ぶことができた。計4回実施。
熊本県八代市での活動	計画通り	被災地の廃材を使った写真フォトフレーム作り。実行団体五ヶ瀬自然学校からのお誘いで、計2回延べ36名のボランティアを参加させた。復興支援は直接の作業だけではなく、被災者への心のケアも復興支援のひとつだと学ばせて頂いた。
佐賀県大町町での支援	計画通り	現地の視察を兼ね訪問し、会議に出席させて頂いたり他の実行団体を紹介頂き大町町への支援に具体的な検討を始めた。第一弾として12月に実施の復興支援イベント「繋ぐサンマ祭り」でボランティア学生の派遣と、復興コンサートを企画した。
学生募集ツールの整備	計画通り	【第一弾】「LINE公式アカウント」を取得し、お友達登録機能を利用した学生募集システムを構築。QRコードを募集チラシに反映し、約10の大学、またはゼミ、サークル等々に配布し募集活動を行う 【第二弾】募集チラシ訴求に加え、新しいチャンネルとしてSNS広告（LINE、インスタグラム）を出稿。配信1週間で100件以上の登録があった（あと3週間行う予定で合計400件を超える換算）

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<ul style="list-style-type: none"> ・諸団体様のご協力で、スムーズに学生派遣が行えた。 ・大町町での復興イベントで、佐賀出身のミュージシャンのコンサートの実施 →RKB主催の復興コンサートとも繋がり、今後のイベント等で演者を募るつてができた。 ・九州経済産業省 九州経済調査協会のシンポジウム登壇。活動実績と企業、自治体との連携強化をPR
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>コロナ禍の影響で、社会活動が乏しい学生へむけて発信を続けていたが、予想通り「ボランティアをしたくてもどのようにすればいいかわからない」といった声も多く、募集に向けて学生の心を掴んでいく意義が必要だと感じた。</p> <p>結果的に第5派の収束後集中して活動を行ったが、オミクロンのまん延により、実際の活動ではなく講演会を集中して行う旨舵を切った。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
久留米市社会福祉協議会	社協の呼びかけに事務局メンバーで参加。被災家屋から浸水した家具や家電を搬出し、集積場へ運ぶ内容。運営する立場の事務局として体験学習のつもりで、ボランティア活動の基本を学んだ
佐賀県大町町役場	九災対事務局からのお誘いで定例会議に出席。活動をしている他の団体様をご紹介くださり、当団体のその後の活動に大きな第一歩となった。会議の席で復興イベントの話の伺い協力することに。実際のイベントスタッフとして学生12名を派遣し、佐賀出身のアーティストの復興コンサートを企画した
特定非営利活動法人YNF	計3回にわたり声を掛けてくださり、主に浸水家屋のかべや床を剥がしてのカビ取り作業を行う。初めて学生の派遣を行い、実際の学生の思い等々もヒアリングでき、今後の学生との接し方にも大きく寄与できるものだった
特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校	2度にわたり計36名派遣し被災した家屋のがれきを使った写真フレーム作りを行った。熊本の高校からの派遣で、付添の先生を含めた生徒さんたちは目を輝かせながら作業を行っているのが印象的で、出来上がった時には最高の笑顔が見られた。ボランティアは活動する人も幸せを感じる事を実感した
特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト	21年のうちに、2度ほど現地への視察や打合せを繰り返し、2月に漫画本整理のボランティアに活動する（した）。頭書はあらゆる方面からの募集を勘案したが、第6派の影響で熊本の高校生計30名を派遣した。心のボランティア第二弾

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	9,450,000	6,856,608	72.6%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		9,450,000	6,856,608	72.6%

補足説明	特になし
------	------

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<ul style="list-style-type: none"> ・RKBラジオ「デモテープ〜福岡音楽時代〜」にて、アースプロジェクト福岡の活動と募集紹介 ・番組HPでロゴバナー貼付 ・RKBのSNSで活動と募集紹介
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	<ul style="list-style-type: none"> ・募集チラシ、支援のしおり、コロナ対策指針ガイド、HP制作 →募集チラシは約10大学の学生課等に直接持参 ・九州経済産業省「九州経済調査協会のシンポジウム」案内チラシ約650社にDM。当日62社視聴
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	<ul style="list-style-type: none"> ・上記制作物、HP、募集ページへの記載 「九州経済調査協会のシンポジウム」にてPR、企業約650社にPR
4.報告書等	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書（9件）

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	ひな形を参考にアースプロジェクト福岡オリジナルの規定を作成
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	今月中に公開を予定
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	